

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
1	年金が少なく、高額な治療費を支払うことが難しく受診が遅れた膵頭部癌患者	60	男	独居		借家、アパート	県営住宅	年金受給者		年金収入本人	10万以上	有	保険料/住民税	国保証	国保証	未申請			無		2022年3月22日	他事業所からの紹介・転院	未記入	9ヵ月	治療中
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果					
	他院に通院していたが病状悪化で通院難しいこと、経済的理由で当院へ紹介あり。	2022年3月29日	病死	無		結婚歴はあり。離婚し、子供とは疎遠。仕事は銀行で勤めたり、工場に勤務したりと転々としていた。県内で住居は転々としており、以前住んでいた税金滞納はあり。0市に転居してからも市県民税の滞納があるが分納相談し少しずつ支払いをしていた。							2021年5月に黄疸あり近医受診し市内の病院へ紹介受診し膵頭部癌による閉そく性黄疸の疑いがあり精査加療目的で県がんセンターに紹介受診するが、経済的理由で入院拒否し、市内病院へ再度受診し入院加療し減黄確認。7月にがんセンターに入院し手術検討するが心不全の増悪あり、対処療法後、8月に自宅退院。その後はがんセンターに通院し2022年2月に病状進行の自覚あり、本人よりお金のかからない方法で療養支援してほしいと希望あり。当院の訪問診療の依頼と、地域包括支援センターに生活の支援面の依頼あり。地域包括支援センターでは介護保険の申請や、サービスの調整など進めていた。3月18日に訪問診療、SW、地域包括支援センターと訪問診療、医療費相談の説明をしに訪問。その時には背中等体の痛みもありやっとな動いており、しんどさもあり話をすることも辛そうだった。生活状況など聞くがあまり話してくれず、家族には迷惑をかけたくないようだった。部屋は必要最低限のもので生活で、書類など整理整頓されており、お金をかけない生活をしているようだった。3月22日初回訪問診療、病状よくなり、連日訪問診療が入り、3月24日に当院入院となり、病状悪化にて3月29日死亡。												

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
2	経済的理由で受診中断し治療が遅れた肺がん患者	60	男	独居		借家、アパート	35000円 ワンルーム、布団は敷きっぱなし。野良猫が出入りしている。トイレは故障。	年金受給者		年金収入本人	10万以上	有	他	国保証	国保証	要介護1	無	無	有	全額免除	2021年6月26日	他事業所からの紹介・転院	2ヵ月	8ヵ月	中断
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯							②受診後の経過と転機							働きかけ結果と対応					
		2022年2月20日	病死	無		Aで生まれ、中学卒業後、15歳で状況。45歳までB市でトラック運転手をし会社の寮に入っていた。その後0市での生活。2021年11月まではペットボトルのリサイクルの仕事と、年金での生活をしてきた。自宅の窓を常に開け、餌を食べに猫が出入りしていた。以前より咳の自覚はあり、入職時健診で肺に腫瘍の影あり6月にがんセンター紹介となり、検査予約するも、そのままになっていた。10月にがんセンターに受診され肺腫瘍の増大を認め、精査、治療に関して相談し緩和治療方向となるが受診中断となる。12月に食欲低下などの自覚症状もあり受診し、金銭面より治療は難しいとのことで、当院へ紹介される。以前生活保護申請相談を本人がするも、生活保護の基準に該当せず、生活保護の申請ができなかった経過あり。 両親は他界。兄はB市にいても連絡取っていない。 本人は自宅に飛行機(軍事)のプラモデル等あり、軍事関係について色々知り合いとやり取りしていた経過あり。							2021年12月13日当院初診、経済的不安もありSWと面談し、無料低額診療事業の説明をし無料低額診療事業利用開始となる。同時に在宅の生活調整で、介護保険の申請、地域包括支援センターに繋ぐ。自宅が足の踏み場がない状況だったため、当院の友の会のワンコインサービスでの掃除の利用検討をしていた。サービスの導入なども検討するも経済的に支払いが難しい部分もあった。病状はよくなり、12月27日に訪問診療となる。同日にSWが同行し生活保護の申請をし、生活保護となる。 年明けには自宅生活が厳しくなり、1月18日に訪問診療に入り入院判断となる。入院し1ヵ月経過の見込みあり生活保護が2月1日より一旦停止となる。入院中、当初は話ができ、自宅に戻ることは困難とのことで賃貸の解約、車の処分などを行う。そして次の療養先を探しても、病状悪化のため亡くなる。その後、兄が当院へかけつけてくれる。							年金は一定あるも、介護や医療負担の部分の配慮も含め、生活保護の申請を相談し、生活保護となる。					

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
3	無収入・親の残した預金で生活を送るため、必要な医療やサービスの利用を経済的不安により自ら抑制する第2号被保険者	50	女	独居		借家、アパート	集合住宅2階(1DK)	無職		その他	5万円未満	無		国保証	国保証		無	無	無	本人の預金から該当しない可能性があったが、制度の案内は繰り返し行った。	未記入	他事業所からの紹介・転院	未記入	未記入	中断
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯							②受診後の経過と転機							働きかけ結果と対応					
	退院後の受診なし。自宅で倒れてる時に救急搬送、入院を幾度も重ねた。	2022年5月25日	その他	無		●成育歴●薬剤師の父による家庭内暴力により両親は離婚。●家族情報●母、逝去。姉、逝去。双子の兄がいるが音信不通。頼れる親族は実母の妹の配偶者(叔父)。詳細な成育歴等は聴取を拒まれた為、不明。●職歴●最終職は子供用品を扱う店舗販売員。(退職から数年経過) ●経済状況●収入なし。遺産相続による預金800万程度。●健康保険●国保 【受診経緯】近隣住民より、洗濯物が干されていないことから110番通報後市内医療機関へ入院に至る。入院先医療機関より骨粗鬆症、肺炎、摂食障害圧迫骨折による疼痛の情報あり。入院中の主治医より精神疾患の可能性をあげられ、精神科フォローを提案したが拒否。退院後も医療面でのフォローが必要であること、自宅はごみ屋敷で異臭がするため、不動産会社からは早期に室内の清掃をするよう申出を受けており、転居を視野に入れた支援が必要。収入もない為、将来的には経済的課題に対する支援等、長短期的課題があった。入院時、病院MSWが介護保険サービス等、制度利用の案内を行ったが利用拒否。在宅に戻り、地域包括支援センターに繋がり、支援が受けられるよう、病院MSWが本人を退院調整を行った。退院したR3年3月頃より、支援開始。●社会参加・地域とのつながり●賃貸アパート階下の高齢者。同世代の知人。							●退院後の経過●上記に記載した医療機関への退院後の受診に来院せず。【来院しない理由】足を痛めており、歩行がしにくい。内科より整形外科に受診を優先したいと考えている。また将来を考え、預貯金を慎重に使いたい。医療の必要性等を伝えるも、過去に関わった経過のある行政の相談窓口への不信感が強く、包括の関りを明確に拒否はしないが望んでもいなかった。しばらくの間は本人が必要な時にセンターへ来所し相談をする、手紙のやりとりを主とし、本人に拒絶されない距離を保つ関係を維持した。本人が買物等で歩いている姿は幾度も確認していた。R3.11外出先で倒れ、救急搬送、他市医療機関へ入院に至ったが、数日で退院。R3.12退院後の外来検査予約時間に来ないことから、安否確認訪問。自宅が倒れており、救急搬送、他市医療機関へ低血糖の為、入院となるが、10日程で退院。本人は金銭面の心配があり、節約のため食事を控える、体調が悪くてもSOSを出さない、お金がかかるので病院受診を拒否することが本人の金銭面の不安を軽減させる手段であり、受診控えに繋がっていた。退院後より、本人宅へ安否確認も兼ねて週1~2回センター職員が訪問を継続。多職種が交代で、訪問毎に経済的課題で受診を控えるのではなく、必要な医療につながれるように、無料低額診療や生活保護制度の案内を重ねていた。本人は生活保護制度を利用することへの抵抗感、今あるお金を使うことへの不安が大きく、本人は受診控えの意思表示を続けていたが、センター職員の訪問を受け入れ、次回の日を必ず約束していた。R4.5.18に本人の希望する翌週25日に訪問約束をした。【知人からの情報】R4.5.18 本人宅訪問後に知人がセンター来所し、情報を得た。本人と知人は電話や手紙を定期的にかわす関係、会う時は自宅内に入った事はなく、玄関の外。室内を見られたくない気持ちを汲んでいた。生活が困窮している状態であることを聞いており、何も食べていないと聞いた時は食べ物を持っていった。生活保護制度の利用をすすめると、「親族調査が入る事に抵抗感がある。親族と疎遠」。最近知人は心配でまめに本人宅を訪問をしている、「体調が悪い」という言葉が多く心配が起きている。以前関わっていた行政の相談機関は本人の状況を理解してもらえず、「ハローワークの案内をされただけで終わった、不信感」。包括とつながっていたことは知らなかった。R4.5.25 センター職員が自宅訪問をするが声かけにもノックにも無反応。110番通報、警察官立ち入った時点ですでに死亡している状態。死因は確認できず、支援終了。												

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況	
6	経済的理由で小細胞肺癌治療を自己中断。体動困難で当院救急搬送され入院後1週間で永眠した患者	70	男	独居		借家、アパート	家賃25,000円の単身用賃貸住宅	年金受給者		年金収入本人	5万円未満	無	水道料/電気代/ガス代	国保証	国保証					有	救急搬送時点で予後2週判断。弟と相談し生保通報はせず、生活面は家人支援。医療費のみ減免希望で無低適用。限度額認定低所での認定あり。	2022年9月4日	救急搬送	未記入	未記入	中断
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯							②受診後の経過と転機							働きかけ結果と対応						
		2022年9月10日	病死	無			同胞7人の6番目。独居。離婚歴あり、前妻との間に子2人も疎遠。長姉以外のきょうだいは存命も、高齢であったり体調不良、入院中、老々介護中等で兄弟関係は良く所在もはっきりしているが、元々定期的な交流ない間柄に加え、互いに高齢となり更に交流は減っていた。アパートの隣人とは関係良好で交流あり。20歳頃-73歳(2022.7月まで)喫煙歴あり。60歳まで自営で建設業を営んでいたが、閉業後はヘルパー資格を取得し介護タクシー事業所(パート)へ勤務。65歳から老齢年金受給開始するも5万円弱/月と低額で、2.5万円の家賃を払うと生活費が不足する為、仕事は継続していた。胃炎で開業医かかりつけ。2021年春、職場の検診で再検査指示有り、かかりつけ医相談したところ肺の精査目的に専門医紹介となる。精査結果、肺小細胞癌(ステージⅢA)診断あり、間質性肺炎の合併もある為、放射線治療は行わず化学療法実施方針となる。同年7/22-9/17まで化学療法3コース実施し効果あり、その後6コース実施予定だったが経済的理由も含め本人が積極的治療を希望せず、無治療経過観察となる。しかし、同年10/15の外来を最後に受診なし。本人は肺がん診断の同時期、体調不良を理由に退職している。2021年10/15以降は元々のかかりつけ、他院含め受診歴なし。健康面は自覚するほどの悪化はなくどうか生活できていたが、年金収入のみで生活が苦しくなった為、2022年に入り生活保護申請も考えてはいたと。2022年9/1より咽頭痛、倦怠感出現し、食事も取れず声も出にくくなり、徐々に体動困難となって来たため9/4に隣人へ救急要請を依頼、当院へ救急搬送された。	9/4救急搬送時、肺癌末期、脱水症、社会的問題(かかりつけ医なし、保険証所持なし-無保険?)、所持金4万円、家人連絡崎々不明)あり入院対応とした。入院当日MSW介入し、①情報聴き取り。医療保険は行政確認し国保資格有及び送付済であること確認。2022.8月からの保険証を自宅に置いたままでと本人から確認できたため、代行で再発行行い、限度額認定証申請を行った。家族への連絡は、本人携帯所持せず救急搬送されたため連絡先不明。きょうだい(配偶者含め)の名前と住まいを確認し、ハローページで探し、三姉へ連絡。三姉からきょうだいの情報も聴き取り、弟が当院患者と判明。弟へ連絡しKP快諾頂く。病状としては、入院後精査し肺がん由来の症状として相違なく、予後予測としては3週程だが食事摂取困難状況にて更に予後厳しいと判断。9/6に弟へ病状説明し、弟が中心にAP整理等行って頂けることとなる。生活保護の通報も検討したが、予後短いこともあり、きょうだいででの援助は可能とのことで、医療費については入院日に通り、無低診対応を行うこととなった。9/10きょうだいに見送られ永眠。なお、死亡退院後、きょうだいに共に未支給年金の受給手続きを行った。																		

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
7	経済的困窮とキーパーソンの負担が大きく受診が遅れた患者	80	男	夫婦のみ		持ち家		年金受給者		年金収入本人	10万以上	有		後期高齢者医療(1割)	後期高齢者医療(1割)	要介護2	有	無	有	入院後の長男・次男との面談で医療費の支払いの心配が聞かれたため、SWから無低を案内した。	2022年4月13日	地域包括支援センター、救急搬送	未記入	1ヵ月	その他
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯							②受診後の経過と転機							働きかけ結果と対応					
	未受診	2022年5月13日	病死	無			社会背景に課題があるとして行政が介入していたケース。本人は元々は杖歩行自立。トイレに間に合わない事があり、リハビリパンツ着用。交換が出来ていたかは不明。入浴はどうか自身で出来ていたようだが、頻度は不明。食事は毎日別居の長男が届けていたが、認知症の妻が本人の分まで食べてしまう事もあった。家族状況は、認知症の要介護3の妻との2人暮らし。近隣に長男一家が在住。元々本人が若い頃に立ち上げた事業が立ち行かなくなり、長男の経済状況にも大きく影響した経過から、長男と本人との関係は良好とは言えない。長男は仕事と、精神疾患を抱えた妻・幼い子どもの面倒を見ながら、毎日本人夫婦宅にも訪問しなければならない状況にあり肉体的にも精神的にも負担が大きかった。経済状況は、夫婦の少額の年金で生活。住民票上、長男一家と同一世帯となっており課税世帯。長男は本人宅の住宅ローンと長男宅の家賃の支払いをしなければならず、経済的に困窮していた。住宅ローンは残り数年で完済予定のため、売却の意向は無し。認知症の本人夫婦との同居は、長男妻の病状の悪化が懸念されるとの理由で困難な状況。当院入院2週間程前から食事摂取量が減少。入院1週間程前に行政が自宅訪問をした際には、栄養食品を手持させて声掛けをしないと自ら摂取は困難な状況だった。地域包括支援センターから長男に連絡し受診を推奨していたが、経済的な心配がある事や長男が多忙である事、長男の病状の理解を得るまでに時間を要したことを理由に医療機関へは繋がっていなかった。役所職員と地域包括支援センターが自宅訪問をした際に体動困難となっている本人を発見し、救急搬送となった。※自覚症状出現、健診での異常指摘等から受診までの期間は2週間程度。	入院直後に役所職員と地域包括支援センター職員より、社会背景に課題があり行政が介入していたケースとして情報提供があった。精査の結果、S状結腸がんと判明。予後は2~3ヵ月の見込み。認知症夫婦2人での生活再開は困難なため、妻は特別養護老人ホームへ措置入所となり、本人は療養型病院へ転院の方針とした。本人の入院費負担軽減と、妻の施設入所費用負担軽減のために世帯分離と標準負担額減額認定証の手続きを長男に行ってもらった。当院入院費は無料低額診療で全額免除となった。また、転院後の入院費用が発生すると妻の施設入所費用の支払いが困難になってしまう。そのため、無料低額診療を実施している他院への転院調整をしていたが、状態が悪化し死亡退院。その後長男家族はアパートを引き払い本人宅へ移った。	入院前から行政の介入あり。行政でも経済的課題は把握しており、住民票を移して非課税世帯となる事で介護保険や医療費の負担軽減が図れる事は長男へ案内していた。また、定期的にケアマネジャーと共に自宅へ訪問し、本人夫婦の生活状況や体調の確認も実施していた。入院後も、住民票の異動・標準負担額減額認定証・無料低額診療事業の申請等について、役所・地域包括支援センター双方からも長男へ早急に手続きに行くように声掛けをしてくれた。																

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
8	誰にも相談できず病状悪化後の受診とな患者様	60	男	独居		借家、アパート		無職				有		国保証	国保証	未申請	無	無	無		2021年12月31日	外来	6ヵ月	未記入	その他
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯							②受診後の経過と転機							働きかけ結果と対応					
	未受診	2022年1月2日	病死	無			・借金問題があり家族とは疎遠となりアパートで独居生活をされていた方 ・タクシー運転手をしていた ・半年前から両足の腫れを自覚。受診の意向なく経過観察していた。 ・R3/12月中旬より両足の腫れが悪化しアパートの2階にあがれなくなり、自家用車で車中泊をして生活。食事は水分のみでトイレはコンビニを使い、コンビニとパチンコ店の駐車場で寝泊りしていた。12/31ホテルに行こうと自家用車運転し、その後歩道に駐車していた所を警察に見られ、病院受診を指示された。警察から20年疎遠だった弟様へ連絡が入り、弟様家族が付き添いの元で当院を受診。そのまま入院となる。	・浮腫の原因は腫瘍による下大動脈圧排や低アルブミンと診断あり ・肝臓がん末期、リンパ節転移、肺転移あり ・入院後、呼吸状態も不良、意識レベル低下あり1/1家族にDNAR確認し、1/2死亡退院となった。	とくになし(年末年始の受診となり、MSW介入前に死亡退院となった)																

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
12	「生保受給経験が生保再申請を拒み、無低を活用した癌末期患者」	70	女	独居	他県に一人息子あり	借家、アパート		年金受給者	不規則に個人的依頼で資格を活かした仕事をし収入を得ていた	就労収入本人、年金収入本人	5万以上10万未満	無		国保証	国保証	申請中	無	無	有	外来初診で即入となり、そこから全額免除適応	2022年4月19日	地域包括支援センター、他事業所からの紹介・転院	1ヵ月	2ヵ月	治療中
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯						②受診後の経過と転機						働きかけ結果と対応						
		2022年6月15日		病死	無		K市で生まれ高校入学時にT市へ。短大を卒業し幼稚園教諭となるが、家族の事情で本市へ転居。結婚・出産したが早々に離婚し、損保の外交員・代理店などをしながら子育てをした。パソコン時代となり、トレーナーの資格を取り、パソコン教室で指導・製本などの仕事をしてきた。2回生活保護受給歴があるが、家族状況・就労収入・生活事情などを調査されたり、居住環境を制限されたりすることがストレスで、仕事・収入が増えるめどで廃止していた。2021年秋から股関節・膝痛あり、近医整形受診。2022年4月に膝痛・腰痛ありかかりつづの整形受診し注射・サポーター処方され様子みていたが、改善なく下股脱力・尿便意の感覚も無くなり再診。独居困難なADLにもなっており、当院整形に紹介（本人が無低があることから当院を希望）。初診時の画像検査の段階で、肺癌の骨転移による脊髄損傷・膀胱直腸障害疑いとなり当院即入。						収入的には生活保護の対象であり生保申請を勧めるが、過去の経験から申請は拒否され無低申請とし全額免除。当院では癌に対する精査・治療ができないため、癌診療拠点病院への受診を勧めるが、本人は経済面もあり消極的。家族の希望もあり一度外来受診したが、転移していることや下股麻痺出現から時間もたっていることからBSC・緩和ケア方針となり、当院へ帰院。独居・全介助レベルだが認知機能は問題なく、本人は終末期を在宅療養することを希望。介護サービスは1割負担かかるが、訪問診療・訪問看護は無低対応とし在宅生活を支援。疼痛悪化などから1週間程度で再入院し、再入院分も無低対応とし病院でお看取りとなる。												

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
13	満足に食事がとれないほど経済的に行き詰まり、受診が遅れた肝腫瘍の患者	60	女	独居	同一世帯の母親が施設に入所中だった。	持ち家	実家に住んでいた。	無職		年金収入本人、年金収入家族	5万以上10万未満	有	水道料/電気代/他	国保証	国保証	未申請	無		無	生活保護を優先	2022年9月20日	外来	不明	未記入	その他
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯						②受診後の経過と転機						働きかけ結果と対応						
	自院・他院とも受診歴なし。	2022年10月4日		病死	無		高校卒業後、東京で働く。30歳頃偉大な仕事を経験したが、その後実家に戻り2021年父親を介護の末看取る。母親も同年12月から入院し、2022年4月施設に入所した。同月母親の退院を前に、自身の体調不良や「車のガソリン代が無く通勤できない」（後述）などの理由で介護職のパートを退職。経済的に行き詰まり、入院直前には電気、携帯電話も止められていた。ガスはそれ以前に金銭負担を理由に契約解除し、卓上ガスコンロを使用していた。同様に経済的な理由で長い間満足に食べておらず、9月には水やお茶しか飲むことができなかった。「いよいよ命の危険を感じ」、車検の切れた車を運転し知人宅に助けを求めた。9月22日歩くのもままならない状態で当院受診し、多発性転移性肝腫瘍の診断で即日入院となった。兄弟は2人おり、兄は世帯を持って近隣に住まい、弟は数か月前まで同居していたが隣りに転居し、本人は実家で独り住まいをしていた。結婚歴はない。						収入は自分と母親の年金だけで、2人で月66,000円ほど。意向を確認の上入院当日、市生活保護担当に来院依頼し、申請を行った。病状説明で「来迎をすることは出来ない」と告知されたが、本人は「なんとも思わない。自分のことはどうだっていいと思っていたから」と表面上は淡々とされていた。兄弟親族は関わりを拒否。知人が面会など、精神的な支えとなった。本人は兄弟について、「金銭トラブルがある。あてにならない」と話された。だが両者の言い分は大きく異なり、真実は不明。いつ頃から具合が悪かったのか何度か尋ねたが、「病気で具合が悪かったのではない、食べていなかったからだ」と繰り返された。入院して12日後の10月4日死亡。決定前ではあったが生活保護とみなし、委託の葬儀会社にご遺体を引き取っていかれた。知人が駆け付けてくれたが、やはり親族は現れず。数日後生活保護が決定。医療費は生活保護に、その他の自費分は2ヵ月後によりやく決定した母親の福祉サービス利用援助事業（社協が受託する金銭管理）担当者に請求を行った。						・即日入院となり、当日付けの生保申請をするために市に来院を求め、結果入院日の申請が受理された。 ・また、当初から死期が迫っていると予想されたため、市に掛け合い、死亡時生活保護としての対応を求めた。その結果、生保決定前ではあったが生活保護受給者同様委託の葬儀会社にご遺体を引き取っていかれた。 ・翌月の自治体キャラバンにおいて、身元保証のない入院患者が死亡した際、ご遺体の引取りを、生活保護受給の有無・障害・年齢に関わらず、生活保護担当課で速やかに対応するよう要請（これまでは生保患者以外は事前に相談要請行っても、高齢者担当課等窓口でスムーズな支援が受けられなかった）。その結果、そのとおり実施する方向で今年度中に結論を出す」と回答を得ている。						

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
14	経済的に余裕がなかった為に受診を手控えた結果、癌の早期治療ができずに死亡した事例	80	男	夫婦のみ		借家、アパート	家賃4.2万円	無職	当院受診時は無職だったが、前医受診時はガードマンのバイトを続けていた。	その他	5万円未満	無	保険料	後期高齢者医療(1割)	生活保護	要介護1	有	無	無		2022年3月29日	他事業所からの紹介・転院	5ヵ月	1年	治療中
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯						②受診後の経過と転機						働きかけ結果と対応						
		2022年5月19日		病死	無		歯科技工士として働く。28歳頃結婚。長男が18歳で歯学部に入った際に、妻が出稼ぎで病院に住み込みで働いて学費捻出した。長男が歯科医として勤めるときに上京して、長男の歯科クリニックで歯科技工士として働く。その頃50歳。すべてアパート（賃貸）。60歳頃に退職したが、無年金だった為、その後20年以上ガードマンとして働いていた。月の手取りは10-15万円程度だった。長男の支援は1万円程度だった（長男妻の実家の歯科クリニックを継いだ事であまり支援ができなかったよう）。2021年1月頃に1日20回以上の排尿あり心配していたが、経済的に余裕がなかった為に市販薬でごまかしていた。まったく改善しないためいよいよ心配になり、同年5月に地元の泌尿器科クリニックを受診。検査結果ですぐに膀胱癌が疑われて総合病院紹介されるも対応できないと言われて、同年6月県立がんセンターへ紹介受診した。同7月にロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘手術+回腸導管造設術施行されたが、肝転移、リンパ節転移、腹膜播種などすでに多発転移していた。抗癌剤治療を行った。この頃に仕事はできなくなり、生活保護を申請している。2021年12月脳梗塞で脳神経外科病院に入院した。その後、本人よりつらい治療は希望されず楽に過ごしたいと希望があったので抗癌剤治療は行わずに緩和療法のみの方針となった。2022年3月、余命について、妻・長男に対して「食事が食べられなくなった時には1ヶ月以内」「食べられていれば数ヶ月」と話されていた。しかし、本人にはそのことを話していない。						3月に県立がんセンターより、当院へ訪問診療の依頼あり、インテーク+訪問診療契約で訪問診療看護師と共に自宅訪問。ADLもだいぶ低下しており、簡易ベッドで寝て過ごすことが多かったが、3m先のトイレまで何とか歩行していた。食事も低下していたが、好きな食べ物やビールを少量飲んだりして、自分の好きなように過ごして満足そうにしていた。詳しい予後は聞いてなかったが、BSC方針は受け入れられていた。3月~5月まで計4回の訪問診療で経過していたが、5月16日~痛み増強して妻の希望もあり入院。5/19に急変してお亡くなりになる。						当院が関わる前に生活保護を申請、受給できていたので特に支援することはなかった。介護保険3割負担も気になったが、利用し始めるときは生保受給していたので特に問題にならなかった。						

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
20	本人の年金の大半を長男が生活費にあてており医療費を支払う余裕がなく退院後受診しなかった高齢認知症患者	80	男	独居		持ち家		年金受給者		年金収入本人	10万以上			後期高齢者医療(1割)	後期高齢者医療(1割)	事業該当	無	無	無		2021年7月5日	救急搬送	未記入	3ヵ月	その他
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯							②受診後の経過と転機							働きかけ結果と対応				
	通院なし	2022年3月14日		その他	無		市内にて農家をしていて高齢になり受け継ぐ家族もなく、田畑は売却し無職になっていた。妻は何年前に亡くなった。長男は約20年引きこもり状態で仕事にはついていない。地域との繋がりはなく、自治会の役員も長男の姿を見たことはない。2021年7月、自転車で行く中、転倒し、頭部打撲疑い、擦過傷にて警察から救急要請があり、当院に救急搬送される。							頭部CTで慢性硬膜下血腫あり、何度も転倒していた様子。血腫が脳を圧迫しており生命の危険があるため高次機能病院に転医、以後脳外科医のフォローとなる。自宅では失禁を繰り返し、自宅は排泄物で汚染されていた。前立腺癌による骨転移もあったが退院後受診も拒否した。入院後より地域包括支援センターに支援を依頼し、カンファレンスに出席、長男へのコンタクトや退院後の自宅訪問等行ってもらい、適宜情報共有を行っていた。退院後地域包括職員が本人と面会するも、受診にはいかないとの返答あり、地域包括による見守りを継続していた。							退院の4ヶ月後、長男が本人が亡くなっているのを発見し、警察から地域包括に連絡があり、死亡が判明した。				

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
21	経済困窮が改善されず、受診がままならず自宅で死亡した患者	70	男	独居		持ち家		非正規雇用		就労収入本人、年金収入本人		有		国保証	国保証	未申請			無		2017年頃		未記入	未記入	中断
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯							②受診後の経過と転機							働きかけ結果と対応				
		未記入		その他	無		<ul style="list-style-type: none"> ・独居 風呂なし トイレなし 疎遠妻あり関係なしとのこと 子供は疎遠。仕事は配達業。 ・「キャンブルで多額の借金をし、自宅の半分を取り上げられた」と。その為、住んでいる自宅にはトイレが無く近くのコンビニに行っていた(もしくは庭に巻いているも。) ・職歴：18~20歳ブロック塀製造、20~24歳自衛隊、その後運送業を転々としていた。 ・借金と給料を前払いを繰り返しながら生活をしてきた。 【病歴】 ・2002年頃より近医にて糖尿病・高血圧指摘を受けていたが、仕事が忙しく受診も中断繰り返しコントロール不良であった。 ・2017年左膝関節痛で当院受診。左人工関節手術をおこなった。 ・その後、右の人工関節もおこなう。 ・2021年には関節リウマチも発症する。 							2022年3月頃より、血糖コントロール悪く、インスリンもなくして打っていない状況だった。5/2内科外来受診時、HbA1c15.3%、血糖517と高値で入院を勧められたが拒否。5/20に倦怠感継続してあり、バイクにて転倒し右外果骨折を診断され同日入院。入院時シネ固定・終日車椅子。リハビリするが荷重制限守れず、入院生活への不満も強く、退院し運送業に復帰すると行って8/1自宅退院。借金返済のため、仕事復帰を急いでいると発言あり。病状的にも法テラスへの相談や生活保護申請をして、治療専念することを提案するも本人拒否。(入院生活においても性格や理解力の低さもあるのか、荷重制限を守れなかったり、偏食強く、間食も多かった。重度糖尿病でインシュリン必要だが管理できなかったとの記載あり)。2022年9月の退院後の受診にも来られず、数日後、警察署より、自宅内で亡くなっており検死中と連絡あり。							働きかけなし。借金返済のため、仕事復帰を急いでいると発言あり。病状的にも法テラスへの相談や生活保護申請をして、治療専念することを提案するも本人拒否。				

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
22	末期肝硬変で治療費が多くなり、生活破綻。支援拒否もみられ適切なサービス実施が遅れ死亡された事例	70	男	独居		借家、アパート		無職		年金収入本人	10万以上	有	保険料	国保証	国保証	未申請	無	無			2021年12月2日	他事業所からの紹介・転院	不明	2ヵ月	治療中
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯							②受診後の経過と転機							働きかけ結果と対応				
		2022年5月一日		病死	無		<ul style="list-style-type: none"> ・両親は他界。親族とは疎遠。結婚歴無し。 【生育歴】 ・大学卒業後、40代後半まで電気工事ではたらき、退職後、タクシー運転手に。 ・50代後半で大腸がんになり手術。無職になり社宅を出ることになりホームレスになる。 ・ホームレス支援団体に支援してもらい生活保護受給。 ・60歳から年金受給により生活保護停止。そこから年金での生活になる。支援団体とも縁は切れていた。 【受診までの経緯】 *急性期病院A病院からの転院患者。 *転院までの経過 ・2021年2月から腹満と下肢浮腫あり、2/25に吐血と腹満で受診し胃食道逆流症・C型非代償性肝硬変の診断で2/26から3/18の間、A病院へ入院。 退院後1回受診しその後中断。 2021年11月14日腹水で動けなくなり受診しA病院入院。2021/12/2加療・退院支援目的にて当院へ転院 *転院時でA病院での多額の医療費や借金が残っていた。 							【転院後の経過】 <ul style="list-style-type: none"> ・利尿剤の内服と腹水穿刺などで腹水コントロールをおこなう。 ・施設入所は拒否され、自宅訪問行い、どうにか自宅での生活は可能と判断し3/11に自宅へ退院。 ・退院後外来フォローしていたが、在宅で定期内服ができておらず2022年4月3日にタクシーに乗車するも行先が言えず運転手が警察に相談し、警察より救急要請あり当院へ搬送・入院となった。 ・入院生活が我慢できず4月26日退院。 ・自宅での生活は限界に来ていたが本人は自宅を希望。 ・介護サービスが必要な状況であり巡回型ヘルパーや訪問看護などのサービスを導入して退院。 ・医療費・介護サービス費など経済的にも一段と困難を極めたため本人も納得し生活保護申請を行なう。 ・その後、病気の進行の影響か不穏行動や攻撃的な言動が頻りに見られるようになる。支援者の助言も聞かなくなり徘徊がや問題行動が続き警察に保護される機会も増え在宅生活はこれ以上困難と施設入所となる。 ・数週間後、施設で死亡される。 							生活保護申請時には早急に対応してくれ、申請時期の相談含めて的確に支援してくれた。				

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
26	世帯収入の減少時に適切な制度活用が出来ていれば早期受診が出来ていたかもしれない患者	60	女	一人親世帯(子が18歳以上)	長男がいるが関係性、連絡先不明、次男はひきこもり	借家、アパート	平屋 家賃4万円。家賃の未納あり。	無職		就労収入家族、年金収入本人	10万以上	有	保険料/他	国保証	国保証		無	有	有	2021年5月の入院～2022年9月に死亡されるまでの入院費と外来医療費。	2021年5月5日	救急搬送	2ヵ月	1年4ヵ月	中断
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯						②受診後の経過と転機						働きかけ結果と対応						
		2022年9月22日		病死	無		職歴：コンビニのパートタイム。令和元年12月まで勤務。その後A DL低下し仕事が出来なくなった。 受診までの経緯：令和2年3月に50cmの高さから誤って転倒し腰を強打。自宅近医受診しレントゲン撮影すると骨折なしの診断であったため、自宅で様子を見ていたが、家で寝たきりの状態になってしまう。本人より苦しさの訴えあり、救急要請。 病歴：令和2年12月から令和3年1月にかけて、A病院で第4腰椎すべり症で入院。同年2月25日にリハビリを希望してB病院受診しリハビリと疼痛に対して投薬。レントゲンにて、左下腹部に石灰化を伴う腫瘤影を認め、精査のためC病院へ受診をすすめられた。令和3年3月以降B病院には受診なし。入院4ヶ月前に比べ体重は10kg減少(本人談) 家族歴：患者父は膵臓癌。母は胆のう癌。 生活保護の相談に行ったが収入面から非該当となった。4月 困りごと相談所(仮名)へ初回相談をし、家計相談と借金があるため債務整理について相談をしている。次男が緊急小口資金の申請を行い、20万円が入る見込み。	入院後、骨盤骨折、骨メタ疑いあり精査の結果、肺腺癌stageⅣの診断。主治医から患者と次男へインフォームドコンセントを行い、内服治療開始となる。癌による呼吸苦や疼痛を内服で管理しつつ、本人の「1日でも早く家に帰りたい」という希望に添い、訪問看護、往診、定期巡回サービスを導入しての自宅退院となった。経済的な問題として国保料の滞納、家賃滞納、介護保険料の滞納による給付制限があったため、家族から家計状況を伺い整理をした上で、滞納しているものから優先的に支払いをすすめた。借金もあったため、会社と支払い額、残高を確認し、命ネットワークと債務整理の手続きをすすめた。国保44条の手続きも行ったが、保護基準の120%を越えているということで却下された。医療費については無料低額診療制度を利用し無料となっている。同居している次男が患者の入院した5日より患者が働いていたコンビニで働き始める。月の収入は11～12万程度の見込み。 退院後約1年は当院の外来で毎月フォローをしつつ、在宅での生活を維持できていた。 2022年6月頃から肝転移あり抗がん剤変更。在宅医よりクーラーのない自宅環境での生活は困難であることと、生活保護申請含めた入院の相談がある。患者は自宅生活を望んでいたが、周りから(在宅医、ケアマネジャー、訪問看護等)の勧めでしぶしぶ入院される。在宅医や訪問看護、介護保険サービスの利用料は遅れて支払っている状況。 本人の「自宅で最後を迎えたい」という意向に添い、ポート作成し、在宅で抗がん剤治療を継続しながらの退院を調整したが、間に合わず当院で死亡された。	生活保護申請時には早急に対応してくれ、申請時期の相談含めて的確に支援してくれた。																

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
27	家族、地域との関係が希薄なため受診が遅れた高齢独居の肺癌患者。	70	女	独居	普段関わりのない姪が入院をきっかけにキーパーソンとなる。	借家、アパート	UR賃貸住宅 家賃22400円	年金受給者		年金収入本人	5万以上10万未満	無	家賃	後期高齢者医療(1割)	後期高齢者医療(1割)		無		有	一度放射線治療のため転院し、戻って来られた後の入院費を無低で対応した。	2022年3月9日	民生委員、救急搬送	4ヵ月	3ヵ月	その他
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯						②受診後の経過と転機						働きかけ結果と対応						
	通院なし	2022年7月3日		病死	無	家族構成：独居(結婚歴なし)、キーパーソン姪。患者の父は肺癌で死亡。 職歴：美容師 生活歴：元々ヘビースモーカーで、20歳からずっと1箱/日吸っていた。令和3年11月頃から咳が酷くて煙草をやめた。 受診までの経過：令和4年1月半ばから体調不良を自覚。日によって調子の良い悪いの変動があったが、日常生活に支障が出るほどではなかったため様子を見ていた。2月半ば頃からさらに体調が悪くなってきた。徐々に顔がこげたり腹囲がへたりしたためかなり痩せたという思いが患者にあり、3月に入り、いよいよ食事がとれない時もあり、2～3日はほとんど食べられなくなり本人から民生委員に相談したところ病院受診を勧められ救急要請。民生委員は普段の関わりはなく、近所の方からたまに患者の状況報告がある程度。	救急搬送後、肺癌疑いで精査し肺癌StageⅣの診断。入院当日、姪より、患者へあまり関わりたくはないが制度(生活保護や介護保険)の利用について相談があった。本人と面接後、収入は年金のみで貯金もなく生活保護基準以下であり、患者からも生活保護の申請意思確認出来たため3月10日保護申請をすすめる。3月24日生活保護の決定も下りる。放射線治療の方針となり、当院では放射線治療が出来ないためA病院へ転院。放射線治療終了後4月8日に当院へ帰院。4月15日年金が振り込まれるタイミングで一旦保護を廃止。医療費は境界層として区分Ⅱ→Ⅰへ変更。また、介護保険の利用もないため介護保険申請もすすめた。当院退院後の行先は自宅、施設、転院という選択肢の中で、費用面やADL、QOL面考慮して転院となる。患者の病状から自宅の退去と家財を処分することとなるが、処分費用が27万円、また、家賃の滞納もあり口座にある年金を活用しても支払いが厳しく当院の医療費は無料低額診療制度を申請し無料となる。5月24日B病院へ転院される。転院直後は一人で歩いて療養出来ていたが急変しB病院で7月3日に亡くなる。死因は肺小細胞癌。入院医療費は無料低額診療制度による無料対応。葬儀は家族対応出来ないため生活保護課による葬祭扶助対応となった。	生活保護申請時には早急に対応してくれ、申請時期の相談含めて的確に支援してくれた。																	

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
31	経済面とアルバイトの子供たちに支援してもらっていたため、受診を控えてしまった、がんターミナル患者	50	女	一人親世帯(子が18歳以上)	本人が無職。子供がアルバイト(長女・長男)	借家、アパート	本人が定職中に借りたマンションの為、収入に対し家賃が高額である。	無職		就労収入家族	10万以上	有	保険料	国保証	国保証		無	無	有	医療費の自己負担分と食事療養費、全額免除	2022年11月25日	外来	3ヵ月	1ヵ月	治療中
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯						②受診後の経過と転機						働きかけ結果と対応						
		2022年12月23日		病死	無	初婚の夫との間に長女と長男をもうけるも、夫よりDVを受け、乳児である長男にも手をあげる程であった。離婚に向けて、生命保険レディなど働き始め収入を得、生計を立てられそうになってから離婚。長男が2歳ごろから男性と同居し始め、その後結婚。しかし、ふたりめの夫は給与をキャンセルにあて、住んでいたアパート賃料を滞納するようになった。本人が先に家を出て別居。生計が立てられるようになってから子供たちを呼び寄せ、今から8年前に離婚した。当初は建設業に就いていたが、退職しホテルのベッドメイキングの仕事に転職。5～6年前、業務中に左手首を棚にぶつけ「複合性疼痛症候群」と診断。その後、別の仕事に就くも、手の痛みがとれず、半年ぐらいで退職し無職となった。中卒の長女は定時制高校に入るも7年在籍中。長男も中卒で建設業に就いていたが、パワハラを受け2022年退職。現在、長女・長男ともアルバイトをしている。2～3ヶ月前位から腰部・臀部の痛みがあり、帯状疱疹を疑い、ペインクリニックと無料低額診療を行っている当院をみつけ受診となった。(両親は20年前に他界。妹は10年前より疎遠。経済的に更生した元夫や、友人との付き合いがたまにある。)	(受診に至るまで…子供たちに受診を勧められても受診に至らず。子供たちが泣きながら受診を訴え、診療費を本人に持たせ、受診することになった。)当院受診。整形外科医師より、悪いものであるとの判断があり同日、内科紹介され痛みのコントロールが始まった。当日から入院が決まり、子供たちにも連絡。来院していただき、がんであり、手の施しようがないことが説明された。入院当初は痛みが軽減されるも徐々に増して行き、麻薬パッチを使用。一時的に自宅で過ごすことを子供たちが了承し、1週間程自宅で過ごすも、再入院となり、5日目に永眠された。																		

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
34	医療費の支払いが心配で受診中断を繰り返した前立腺癌患者	60	男	独居		借家、アパート		無職		年金収入本人	5万以上10万未満	無		国保証	国保証	要介護1	無	無	無		2022年5月27日	外来	不明	3年7ヵ月	中断
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯						②受診後の経過と転機						働きかけ結果と対応						
		2022年11月15日	病死	無		高校卒業後に会社員として30代半ばまで働く。会社の人間関係が原因で退職し、工場で50歳頃までアルバイト。その後は農家でアルバイトをしていた。結婚歴はなく、兄妹とも縁を切ったと言っていた。2019年4月に他院で前立腺癌と診断。治療をしていたが薬剤費が高く、支払いが大変との思いで2021年1月～2021年8月まで中断。その後受診したが2021年12月から再中断。2022年4月に自宅で倒れ他院に救急搬送。病名は前立腺癌進行による腎不全。5月に当院にリハビリ目的のため転院。転院時から帰宅願望が強く、地域包括支援センター、ケアマネジャーと病院職員が相談し転院して1週間ほどで退院。膀胱留置カテーテルが必要な状態での退院であり、本人管理が出来ていない状況のため、介護保険サービスの導入が必要であったが、本人の拒否(経済面が理由)があり導入できず退院となった。その後医学管理先が当院となったが、9月から受診中断。11月に本人が体調不良で受診した。前立腺癌の進行から予後数ヶ月と診断され当日入院した。	医師よりSW介入の指示があり、初めて介入した。入院期間中に細かな経済状況を確認し、無低診など相談を進めていこうと思った矢先に、受診4日後に死亡した。	特になし。																	

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
37	脳梗塞発症し救急病院入院するが医療費心配し、早期退院し自宅では看られず最終的に入院し看取った患者	70	女	独居	他県に弟家族おり、弟がキーパーソンで他の家族を関わらせようとせず	持ち家	持ち家だが、地代が月8000円かかる	年金受給者		年金収入本人	10万以上	無		後期高齢者医療(1割)	後期高齢者医療(1割)	要介護2	有	有			2022年5月18日	他事業所からの紹介・転院	不明	1ヵ月	治療中
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯						②受診後の経過と転機						働きかけ結果と対応						
		2022年6月22日	病死	無		健診により2022/1肺癌が見つかり、大学病院に入院治療。3月に骨転移見つかり緩和治療方針で、当院と同法人の診療所の訪問診療と介護保険サービスを導入し独居生活。介護保険は保険料滞納があり3割負担のため当初は弟が主に介護することになっていたが、弟や弟の妻にも病気が発覚し積極的に介護できず。しかし、サービスの利用料も高額の範囲内でのサービス利用を希望。徐々に本人のADLも低下し在宅介護は限界であったため4月に当院の入院を希望されていたが直前でキャンセル。その後5/13訪問看護時に半身麻痺の症状あり大学病院へ救急搬送。血栓除去手術必要であったが医療費がかかるということで弟が拒否。退院を強く希望され5/16に自宅退院。脳梗塞発症直後で自宅での一人暮らしも厳しいため診療所から弟を説得し当院に5/18に入院となった。入院後、弟「診療所から月6万程で入院と聞いていたが話が違う。年金の範囲内でまかないたい。年金でどうにかならないと困る。自分はこれ以上できないので、もう縁を切るか、自分が死ぬしかない」と興奮されること度々あり。年金が月12万あり課税世帯となっており、医療費の減額ができず。弟遠方のため、衣類等の持ち込みも難しく1か月の医療費が年金額を超えてしまう状況あり。本人は脳梗塞後で意思疎通困難な状況。病棟にもオムツの使用方法について検討してもらい、弟へ繰り返し説明。本人の病状と入院期間が関わってくるため、主治医にも説明してもらい対応。肺癌の影響もあり1か月ほどの入院で亡くなる。支払いについては結局弟が対応し支払ってください。																			

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
40	相談先が分からなかったことと経済的な不安により受診ができなかったと思われる肺癌患者	70	男	独居	妻とは離婚、子どもが3人いるが疎遠	借家、アパート	家賃：3万3千円/月	年金受給者		年金収入本人	5万以上10万未満	無		後期高齢者医療(1割)	後期高齢者医療(1割)	未申請	無	無	無		2022年8月26日	救急搬送	不明	2ヵ月	中断
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯						②受診後の経過と転機						働きかけ結果と対応						
		2022年10月15日	病死	無		以前より咳・痰有り8月中旬から体調不良で食事・水分はあまり摂取できていなかった。8/26コンビニに行った際に体動困難となり救急搬送肺癌の診断で入院となった。入院時には左足趾が真っ黒であり第一足趾は壊死していた。同僚6人の4番目。上3人は異母兄弟、連絡の取り合う兄妹はいない。妻とは30年以上前に離別。子供は長男、長女、次男がいるが離婚して以降は身内の葬式で顔を合わせる程度で連絡は取っていなかった。父親の仕事の都合で中学2年生の時に家族でS市へ移住。27歳の時に父親がN市に家を建てたことで転居してきた。高校卒業後、父親の経営する精密機械の商社に就職するも45歳で父と仲違いし退職。その後10年間自営業で住宅リフォーム業。60歳でタクシー運転手に転職し75歳まで就労していた。タクシー運転手をしていた時までは年金に加えて月10万円～15万円の収入があった。貯金はしておらず、収入は全て飲み代に充てていた。仕事終わりに毎日飲み屋で飲酒し、運転代行を頼んで帰宅する生活。食事も飲み屋で済ませていた。年齢を考えタクシー運転手を辞めてから生活が苦しくなった。外出は買い物のみでほとんど自宅で寝ていた。3日に1回近くのコンビニに車で食料を買いに行く。具合が悪く入浴できていなかった、入院前3ヶ月は入浴できていなかった。自宅はかなり虫が飛び交いかなり不衛生な状況。入院後、輸液のみで体調は改善傾向となり退院調整を兼ねて9/27に一般病棟から緩和ケア病棟へ移動となった。緩和ケア病棟へ移動後、閉塞性肺炎となり状態改善せず終末期の判断。麻薬を開始し10月15日に亡くなった。入院時より経済面での不安あり。年金では生活するだけで精一杯だったとのこと。年金収入は月10万円だったが昨年まで収入があったため課税世帯。生活保護の提案も行ってはいたが、本人より何かあった時は息子に相談したいという希望あり息子へ連絡を取る。当初は協力してもらえという話だったが、経済面の不安や今後の施設入所など具体的な話をしていくとなかなか長男と連絡が取れなくなり最終的には本人との関わりを拒否された。生活保護の相談を市役所へ行ったが、当初は入院基準を収入が上回っている為申請は却下されていた。医療費のみでも認められないか交渉していた最中に本人が亡くなり、葬祭扶助も相談したところ医療費も合わせて生活保護が認められた。																			

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
43	収入が父親の年金だけのために治療中断し、死亡したと考えられる乳がん患者	50	女	その他	高齢の父親と二人暮らし	借家、アパート		無職		年金収入家族	10万以上	無		国保証	国保証	未申請	無	無	無	入院後に説明したが、受けなかった	2020年1月23日	外来	不明	不明	中断
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯							②受診後の経過と転機							働きかけ結果と対応				
		2022年7月14日		病死	無		小学生の頃いじめにあい、中学から不登校となる。以後引きこもり生活。職歴なし。結婚歴なし。父親と二人暮らし。母親は60代で死去。姉妹は別居の姉2人。長姉は、くも膜下出血後で軽作業しながら一人暮らしにて金銭的支援が必要。次姉は北欧在住。当院に緩和病棟があり、自分が亡くなった後、娘をみてもらえればと父親が希望し、2020年1月 当科受診となった。本人に中断された理由を聞く「父に対する恨みが治療拒否となっている」との発言あり。父親が厳しく育て評価してきたことへの反発と考えられた。しかし胸水が溜まって呼吸困難がある状況でも自転車通院しており、収入が父親の年金だけだったため金銭的に節約されていたと考えられた。二人暮らしであったが、生活は全く別々にされていた。受診時も並んで座っていることはなく、父親は他の待合いで待たれていた。しかし電話で受診の確認をしたり、病院への送迎など、A氏の心配はされていた。	2011年12月 B病院にて左乳房全摘、リンパ郭清(グレード3)。入院中同室者のいびきが我慢できず、ドレーン挿入のまま退院。その後C病院で内服治療するが、2015年10月以降中断。2017年 左胸壁腫瘍に気づき、C病院で局所再発と診断されるが、治療受けたくないと言い、その後受診せず。当院受診時のCTにて多発胸膜転移認められる。ホルモン剤内服を2020年5月～2020年12月開始し、一旦腫瘍マーカー低下するが半年で上昇し、ホルモン剤注射(2021年7月～2022年4月)に切り替えるも再度マーカー上昇、転移巣の腫大、胸水貯留がみられ中止となる。その後は内科で度々胸腔穿刺、胸水排出を行う。2022年6月 緩和ケア病棟に入院、2022年7月 死亡退院される。注射導入の際に父親は「効果がある治療でも金銭的に途中で断念することになるくらいなら、初めからやらない選択をしたい」と言われ、A氏も「父親がそういうなら…」と言われていた。そこで無料低額診療の制度利用を医師より提案し、父親は「自分で色々調べているが、それ以上いい話はないと思う」と言い、二人でSWの話を聞いてもらった。後日「制度利用はしないが、出来る限りの治療を受けさせたい」と父親から連絡があり注射治療を開始し、9ヶ月間実施できた。死亡退院後、父親が外来へあいさつに来られ、「大変よくして頂いた。今後は組合活動に出来る範囲で参加していきたい」と、話された。	自治体キャラバンにて、無料低額診療事業制度について広報誌に掲載する等の市民への周知を求めた																

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
44	がんの進行があったが費用や家族のことが心配で入院を拒否していた透析患者	60	男	その他	弟との二人暮らし	借家、アパート		無職		年金収入本人	5万以上10万未満	有		国保証	生活保護	要介護2	無	無			2011年8月	他事業所からの紹介・転院	不明	13年	治療中
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯							②受診後の経過と転機							働きかけ結果と対応				
		2022年1月5日		病死	無		元々親がやっていた印刷会社を継いで兄弟で自営していた。兄弟で賃貸マンションに同居。会社も賃貸物件。2008年から透析開始。2011年に弟(無年金)が脳血管疾患発症し、障害が残ったため、実質会社は本人が一人で行うことになる。2012年に腎がん発症して手術し腎臓摘出。その後商売継続しながら通院していた。2020年に入ると印刷の仕事も減っていた様子。また副腎や骨への転移がわかる。2021年春ごろから債務の整理など税理士と相談ははじめ、7月には会社を畳む。8月に生活保護の相談を開始したらしく透析室経由でSWにつながった。確認して行く借金が会社名義と本人名義のものが混在していたり、一旦相談に行ったものの本人がまだ頑張りたいたなかな手続が進まなかったりした。生活保護の相談係もいろいろ整理はしてくれたようやと11月から生活保護受給と破産手続きを開始した。こたわりもつよくあまり自分のことを他人に話したがらず。	2021年12月になって、いよいよ生活が大変そうだが、本人が入院したくないと透析室から相談あり。本人と話すが債務整理や弟のことが気になって入院したくないと。SWが手伝えし、直接弁護士とやり取りするから入院しようとするもつづけたが弁護士の連絡先は教えてくれず。12月下旬に透析後緊急入院。それでも家のことが気になると落ち着かず、本来面会禁止ではあったが弟と直接あって話してもらい、破産手続きを取ったことで口座が凍結し年金が受け取れずその手続きが気になっていたとわかる。生保は窓口払いになっていたため、弁護士ともやり取りはじめ、本人にそのことを伝えたと、本当に安心して泣き出された。生保ケースワーカーにも相談したが、借金のことなどは介入してもらえないとあきらめていた様子。入院後2週間ほどで亡くなった。年末年始も挟んでいたため、様々な手続きが途中であった。本人が弟へいくら残していたものを弟が引き出してしまっていたことから財産放棄ができず、破産手続きをとっていた弁護士とともに弟と相談し、弟は一旦相続後自己破産をすすめることにした。	元々生活保護の相談係の対応が良くない自治体であったが、この方の担当者は一度MSWが相談の経過を確認したところ、区から本人に連絡とり、相談の中断理由など確認して破産手続きの窓口へ繋げるなど以前とは格段に対応が良くなっていることは感じた。しかし受給後、生保担当ケースワーカーは本人が口座凍結や手続きが思うようにできていないことをわかっていただいても関わらず特につまらぬフォローなどしてなかった。また本人が亡くなったあと、障害のある弟に引越しをあまりせかせさないでほしいと伝え承諾したのにも関わらず、弟本人にはその月内の引越しをするよう言っていたことがわかった。																

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
45	後期高齢者医療保険証を所持していたが、生活保護基準ぎりぎりの収入で病院にかかることが遅れた骨折患者	80	男	二世帯・三世帯同居	本人・妻・子(病氣にて退職、求職活動中)・孫(パート)	借家、アパート	ハウスの1階	年金受給者		就労収入家族、年金収入本人	10万以上	無		後期高齢者医療(1割)	後期高齢者医療(1割)	申請中	無	無	有	無料低額診療にて本人窓口負担分10割減免	2021年11月13日	地域包括支援センター	未記入	2ヵ月	治療中
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯							②受診後の経過と転機							働きかけ結果と対応				
		2022年4月10日		病死	有	就労収入の減少	高血圧、認知症で他院開業医かかりつけ。2021年11月上旬に自宅で転倒。しばらく様子を見ていたが、左下肢の痛みが強く、体動困難となり、A病院へ救急搬送。左大腿骨転子部骨折の診断があったが、経済的余裕がなく入院や手術は拒否され帰宅。もしも入院や手術を希望されるなら、自宅近くのB病院宛の紹介状を持っていたが「お金がないから行かない」とご本人が言われており、受診はせず。転倒後、寝たきりとなり、自身では寝返りも出来ず、褥瘡もでき、部屋は屎臭が強く、布団も汚れている状態であり、困りきった妻がケアマネジャーに相談。ケアマネジャーが無料低額診療事業について調べ、当院へ相談された。もともと要支援1の認定があったが、経済的な理由にて介護サービスの利用なし。骨折前から自宅での入浴が難しくなっており、デイサービス利用につなげなかったが、経済的な理由で利用につながっていなかった。自宅では妻、子、孫との4人暮らし。本人と妻は年金収入あり。妻は2020年に癌の手術をされ、定期的に他院へ通院中。子は介護系の仕事をしていて腰痛等の悪化により退職。コロナ禍で新しい仕事も見つからず2年程が経過。入院されてきた時点でフルタイムの仕事を始めるところだった。孫はパート、生活費の援助もされていた。預貯金もなく、妻、子の通院費も必要な中で、ご本人の入院費や介護サービス費は出せない状況であり、自宅療養をされていた。	同年11月13日、当院へ救急車で来院され、そのまま入院となる。入院後、MSWが自宅訪問をし、これまでの経過や経済状況について確認。世帯収入が生活保護基準の108%であったため、無料低額診療事業の申請を行い適用。本人窓口負担1割分をすべて減免することで決定となる。左大腿骨転子部骨折の手術予定であったが、入院後下血あり、十二指腸潰瘍と診断され、輸血を実施。下血や貧血、長期臥床の影響もあったのか経口摂取が進まず、CVC挿入にて補液投与となる。全身状態不良の期間が続いているため、転子部骨折の手術は行わず、保存的治療で経過をみた。高カロリー輸液の投与はご家族も希望されず、補液のみで経過、小康状態が続いたため、近隣の医療療養型病院へ3月29日に転院となり、転院先で4月10日に逝去された。転院先は無料低額診療事業を実施している病院ではなかったため、費用負担についての不安も聞かれたが、入院費について事前に説明を行ったことと子の就労収入が増えたこともあり、なんとか転院後の支払いについても可能な状況となった。																	

事例No	プロフィール	年齢	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額 額(手取り)	負債の有 無	各種税金 などの滞 納状況	受診前	受診・入 院時	介護度・ 申請状況	介護保険 サービス 利用	介護保険 料滞納	無低適 用	無低詳細	初診日	相談・受診経 路	自覚症状出現、健診 異常指摘等から受診 まで	治療期間	通院状況
	「忙しいを理由に受診が遅れた2 型糖尿病患者」	40	男	独居		借家、ア パート	仕事を解雇され ホームレス状態 だったが、市役 所保護課職員と 一緒に家を探し て、家を借りる ことができて7 月から入居。	非正規雇用		就労収入本人	5万以上10万未 満	無		生活保護	国保証	非該当	無	無	無		2020年5月27日	外来	不明	1年10ヵ月	中断
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の 影響	影響内容	①生育歴、職歴、受診経緯							②受診後の経過と転機							働きかけ結果と対応					
46		2022年1月18日	その他	無		患者は、2020年5月11日にアナフィラキシーショックを起こし他院で入院、その際に糖尿病を指摘され当院紹介となった。2020年8月7日に職場近辺の診療所に転医したい、との希望で受診。主治医にて情報提供書を作成し、職場近辺の診療所に紹介した。2021年5月12日に市役所保護課職員より当院に連絡。「現在、A市に移住し、生活保護申請中。病院受診もできていない様子なので、健康状態確認の為に受診にいらして欲しい。」とのことだった。2021年5月14日に当院受診。2020年12月に仕事を解雇。この頃から多量飲酒、下痢が出現、下肢の痺れもひどくなった。社員寮にも住むことが出来なくなり、A市に移住し生保申請に至ったことを主治医にて聞き取った。自宅は決まっておらず実質ホームレス状態である。糖尿病性神経障害、2型糖尿病、肝機能障害、低カリウム血症、不眠症、大腸ポリープの治療目的にて2021年5月17日に当院入院になった。当院入院中は、補液、インスリン使用にて下痢は消失、カリウムも正常化した。痺れに関しても、内服にて改善した。自宅に関しては、入院中にA市役所保護課職員にて不動産屋に交渉していただき、2021年6月4日にA市役所保護課職員にて不動産屋の契約書を持参し、手続きをしていただいた。入所までの手続きには、約2週間程時間を要するため、入居が正式に決まるまでは、一時生活支援事業にて対応することになり、2021年6月11日に自宅退院となった。							当院退院後、2021年7月5日にA市役所保護課担当職員が本人と連絡が取れないことを心配して自宅訪問。裸で座っており、様子がおかしいとのことで当院に連絡。受診となった。診察した医師にて入院をすすめるも本人は拒否。帰宅となった。A市役所保護課担当職員にてしばらく見守り実施。A市役所保護課職員より、「内服にて症状は落ち着いてきており、体調もよくなったが、自宅では糞が散乱していることがあり、近隣住民からクレームがきている。」との情報があった。糞が散乱している時の状態としては、泥酔していた、との情報があった。8月4日受診時に、7月31日に住まいが退去となり、新居を探していること。しばらくは母と同居していることを確認した。生活保護を受けていたが、11月から雇用保険の支給が開始。生活保護の基準額を超えており、生活保護は停止となった。12月から塗装業の仕事を始めた。2022年1月11日予約受診に来なかった為、当院スタッフにて本人に連絡。「仕事が忙しい」との理由で受診に来なかったことを確認した。電話をかけたスタッフと本人で話し合い、残業も残っていることから、本人より、後日受診予約の連絡をすることで調整した。1月18日に自宅でなくなったことを警察署にて確認。							生活保護を受けているときは、A市役所保護課担当職員にて住居探し、見守りなどをしていただいていた。					